

噴煙を上げる阿蘇中岳を描いた作品の前に立つ日本画家の
中村賢次さん＝熊本市中央区



熊本市の日本画家

中村さん

熊本市在住の日本画家中村賢次さん(60)の個展「畏と安」が17日、中央区の市現代美術館ギャラリーで始まった。7月30日まで。「阿蘇」と「花」を題材に、自然を畏怖し、愛でる心を表現した作品13点が並ぶ。中村さんは日展特別会員。崇城大芸術学部教授を務め、本紙で連載している日本近代史家・故渡辺京二さんの「小

「阿蘇」「花」題材に13点

市現代美術館
7月30日まで

さきものの近代」の挿絵も手がけている。

会場は二つのパートに分かれており、「阿蘇」は、2016年に爆発的噴火を起こした中岳をはじめ、その噴煙を貫く雷と巻き起こる風に着想を得た「雷神」と「風神」、熱風うずまく野焼きを描いた迫力ある作品を展示。「花」では、肥後六花のびよつぐや、多良木の四季を描いた絵画など空間を彩る華やかな作品が並ぶ。

中村さんは「阿蘇にあった母の実家が水害で流されてしまったり、近年災害続きで、あらがうことのできない自然の力を感じたことが制作の源になっている。これから熊本を自然を描いていきたい」と話している。

同館で開く関連イベントは次の通り。20日午前11時～午後5時、公開制作用の花のスケッチ▽6月17日午後2時、アーティストトーク。会期中、20日にスケッチした花を使って大作を公開制作する。入場無料。
(澤本麻里子)